

(1月1日現在)

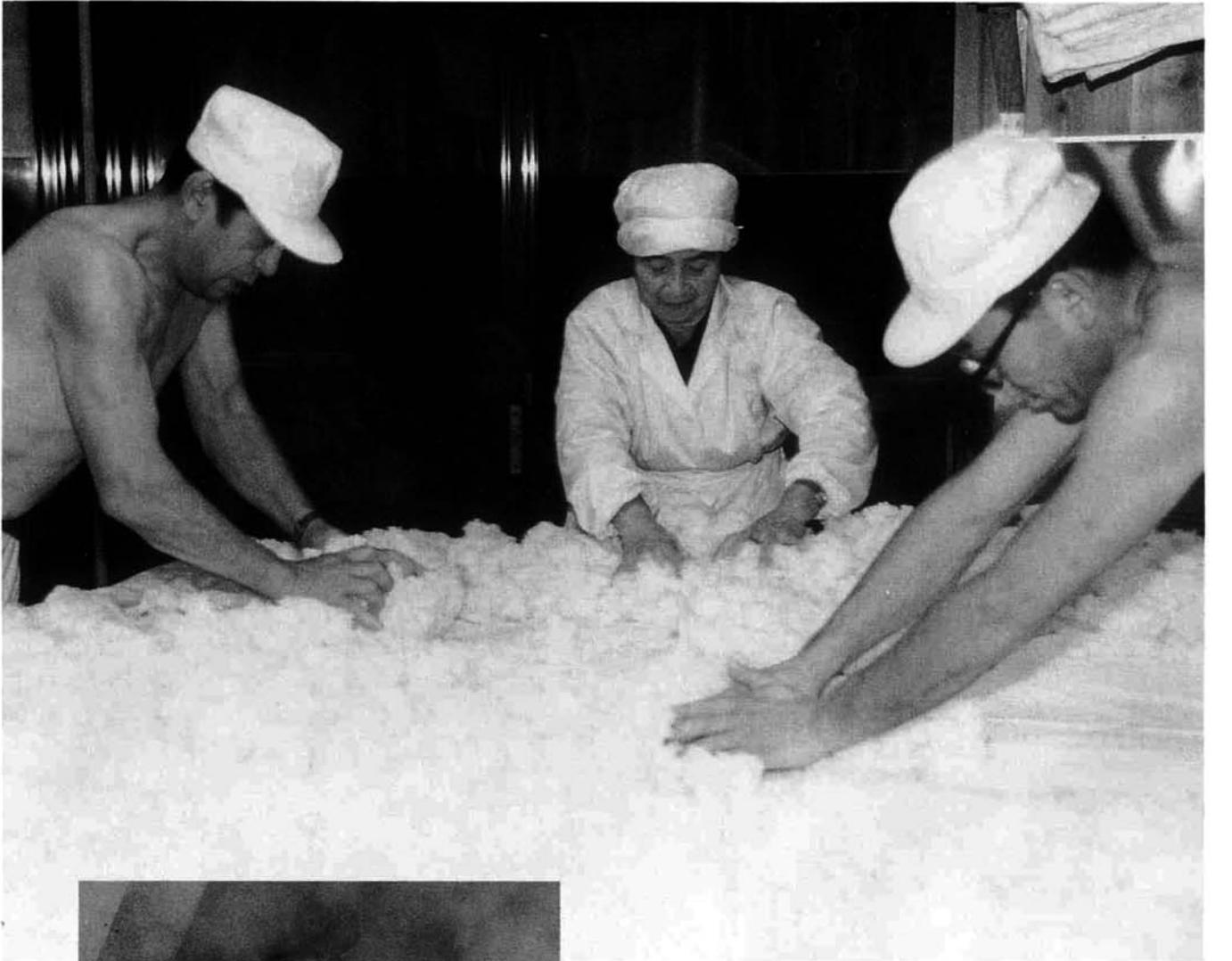
人口	男 3,459人 (+10)
女	3,734人 (+2)
計	7,193人 (+12)
世帯数	1,868 (+3)
()は12月1日との比較	

平成8年1月17日  
発行 新潟県三島郡三島町役場  
電話 (0258) 42-2221  
印刷 長岡市あかつき印刷

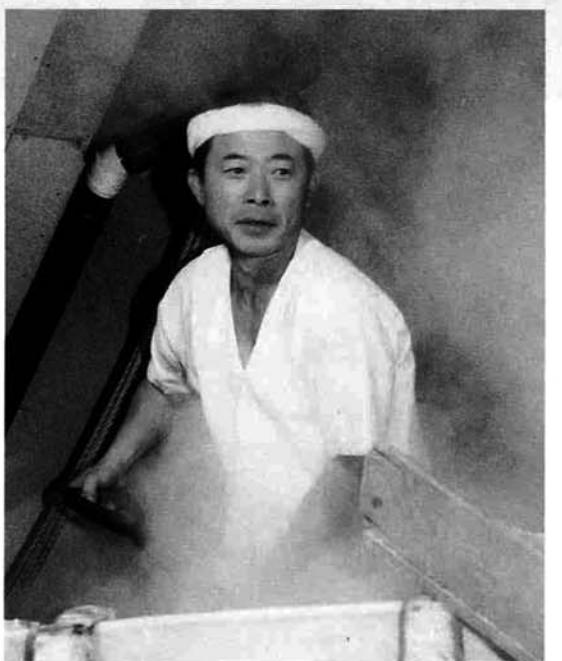
第334号

合併40周年記念シリーズ⑨

## とつておきの1枚



こうじ菌をむらなく酒米に混ぜる「床もみ」作業



## 寒仕込

年末年始、お酒の切れる時がなかった、という人も多いのではないか。酒は正月に欠かせないもののひとつです。

町内の酒蔵では、今「仕込」の真っ最中。オートメーション化が進む酒蔵の中でも、よい酒の決め手はやはり、昔ながらの手作業、杜氏さんの勘によるところが大きいといいます。

▼皆さん、新しい年が明けて、どんな初夢を見たでしょか。古くは立春の日に見る夢だった「初夢」は、江戸時代には正月2日の夜に見るものとされました。現在では元日の夜に見る夢のことと考えられています。昔から初夢で見ると縁起がよいとされてきた「一富士二鷹三茄子」。しかし、その由来には諸説があります。きりしません。一番よい「富士」は日本一高い富士山、第二の「鷹」は空高く飛ぶ鳥、第三の「茄子」は値段の高い初茄子と考えると、「高い」という点が共通しています。「鷹」は富士山の中腹にある愛鷹山とする説、語源が「成す実」の「茄子」は実がよく成るめでたい野菜とする説などもあります。三つとも静岡県の中央部、駿河の名物で、駿府（静岡市）を隠居地とした徳川家康と結び付けられた説が有力ですが、必ずしも定説とはいえないようです。果たして本当に初夢で見ると縁起がよいのか？今年「富士山」「鷹」「茄子」の初夢を見た方は、ご連絡ください。▼ともかく1996年の幕開け。今年は子（ねずみ）年で、新たな気持ちでスタートするのにふさわしく、十二支でいう最初の干支の当たります。昨年までの数々の失敗、嫌な思い出は都合よく忘れて、心機一転がんばりましょう。今年が「広報みしま」の読者の皆さんにとって、良い年でありますように……。



写真提供：小林繁さん（吉崎）

## 脇野町町制20周年の文化祭

写真は脇野町が町政を施行（昭和9年11月1日）してから20周年を祝う文化祭を撮影したもの。旧役場庁舎（現在のみしま交流センター）前から写したもので、右奥に見える建物は、以前の教員住宅です。

町民の皆様におかれましては、輝かしい希望に満ちた新年を健やかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は阪神大震災や一連のオウム騒動など、非常に痛ましい天災や事件があり、激動の一年がありました。当町におきましても七月、八月の二度にわたる集中豪雨で、農林道、公共施設に多大な被害があり、脇野町中心地では浸水による被害も発生しました。公共施設の被害につきましては、国、県の補助を受けながら、今後三年計画で復旧対策を講じて参ります。町中心部の湛水対策につきましては、来年度補助事業として採択されるよう、現在国、県に陳情を行っているところであります。

さて、平成八年の新春を迎えて、二十一世紀まで残すところ五年となりました。景気低迷のあおりを受け厳しい財政状況下ではありますが、新世紀への展望に立ち、限られた財源を有効適切に配分し、夢や希望を持てる新しいまちづくりを進める決意であります。

現在工事が進んでいる「中央公園」はこの春、三月に完成します。広さ約一・五ヘクタールの中央公園は三島郡内随一の規模で、雪解け後、皆様のいこいの場として、大いに利用願いたいと思います。また同じころ、介護を必要とするお年寄りをお預かりする「デイサービスセンター」が、みしま園の隣に完成します。この施設は、高齢者福祉と医療、保健が一体となったサービスの提供を目指すもので、四月より業務を開始する予定です。

また、八年度では、次代を担う子どもたちの教育環境整備の一環として、脇野町小学校の改築準備を進めるほか、安心して暮らすことのできる防災対策の拡充を図ります。そのほか、みしま中央団地内開発公社有地の新たな宅地分譲で、さらなる人口増加対策を推進し、町民生活に密着した生活関連施策につきましても、できるものから一つ一つ実施し、安全で快適なまちづくりに向け、最大限の努力を傾注する所存であります。

終わりに、今年が町民の皆様にとりまして、幸多き充実した年となりますことをお祈りいたしますとともに、町政に対しまして、相変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

## 新年のごあいさつ

### 三島町長 河 内 忠 彦



## 新年のごあいさつ

### 首都圏みしま会会長 結 城 栄 一



平成八年の輝かしい新春を迎え、会員の皆さんとともに郷土三島町の将来を寿ぎ、町勢の繁栄をお祝いできることは、誠にご同慶にたえないところであります。

新しい年への出発にあたり、戦後五十年という節目の年であった昨年を顧みますと、阪神・淡路大震災に始まり、地下鉄サリン事件に始まる一連のオウム真理教騒動など、痛ましい天災や事件が多発する中、景気は政府の予想とは裏腹に伸び悩み、金融機関の破綻や住専不良債権の処理問題などの課題を抱え、依然として足踏み状態にあり、何かと暗い話題が多い年でした。

政治、経済がこのような不安定、不透明な状況の中で、昨年、私たちの故郷三島町は、町村合併四十周年の記念すべき年を迎えました。そして、私たち会員の多くの母校である脇野町小学校、日吉小学校がそれぞれ創立一二〇周年、一〇〇周年を迎えた年でもありました。これらをお祝いする数々の催し、式典が成功裏に終り、嬉しい限りです。その一方、道路、下水道など都市整備も進み、国勢調査人口も増加するなど、三島町が「より活力ある町」へ着実な歩みを見せた年であります。これもひとえに河内町長さんのもと、ふるさとの皆さんのが一致協力し町づくりを進められていくことによるものと、心から敬意を表します。

さて、昨年六月に開催いたしました総会には、大勢の会員の皆様からご参加いただきましたうえ、三島町からも多数ご出席いただき、盛会裏に総会を催すことができました。十一月には、湯沢町に場所を移して「ふるさと交流会」を開催したところ、地元町民の方々から多数ご参加いただきました。懐かしい顔、幼少のころの面影を見つけ、ふるさとの思い出話に花を咲かせながら楽しいひとときを過ごさせていただきました。本会が発足して五年目となる今年の集いにも、会員はもとより、ふるさと三島町からも多数出席いただきたいと願うものであります。故郷から多数の方が参加されれば、会員の参加も増え、交流会が大いに盛り上げるものと思われます。

終わりに、郷土三島町の益々の隆盛と、会員の皆様及び三島町民の皆様方のご多幸を心より祈念いたしまして、新春のごあいさつとさせていただきます。





